

**令和6年度第1回鹿児島市病院事業経営計画策定推進委員会  
(8/9開催)における委員の主な意見について**

- 1 市立病院、大学病院、医療センターで高度医療を必要とする患者をしっかりと受入れ、それ以外の患者は他の病院が受け皿になってもらう。そのような医療体制が高度急性期施設の収入にも繋がり、鹿児島県全体の医療にも繋がる。
  
- 2 県の地域医療体制を考えると、市立病院は要の病院であることは間違いない。今、医療は集約化の時代なので、市立病院に新しい高度医療が作られることは非常に有意義な事だと考える。
  
- 3 再整備で入退院支援センターの改修があり、医療連携室と病棟との連携がいかに行えるかが大事であるが、各部署が自分たちに何ができるかを考えていかななくてはならない。
  
- 4 市立病院が持っている知識や機能を人事交流等で地域の施設へ還元していってもらえると、そこからも自然と連携体制は構築していけると思う。
  
- 5 新しい地域医療構想が2025年から始まる。市立病院は鹿児島医療圏に入っているが、それだけでなく、県全体を広い視野でとらえて、市立病院がハブになるような地域医療構想であってほしいと思う。